

平成二十八年年度入学試験問題（推薦入試Ⅱ・帰国子女）

小論文

法文学部 国際言語文化学科 琉球アジア文化専攻

注意事項

- 一、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 二、解答は、必ず解答用紙に記入すること。問一は表面、問二は裏面に書くこと。
- 三、解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないように注意すること。
- 四、解答時間は、一二〇分である。
- 五、縦書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

非公開

問題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

非公開

非公開

非公開

非公開

非公開

(杉本良夫、『日本人をやめる方法』、筑摩書房、一九九三年、一六三〜一七五ページ、抜粋・一部改変)

問一 本文の論旨を四〇〇字以内でまとめなさい。

問二 本文6頁の傍線部分「自文化至上主義と文化相対主義、エティック概念とエミシック概念のせめぎ合いに焦点を当てて思考を進めること」について、あなたの考えを六〇〇字以内で述べなさい。

平成二十八年年度入学試験問題（推薦入試Ⅱ・帰国子女）

小論文

法文学部 国際言語文化学科 琉球アジア文化専攻

出題の意図

国際言語文化学科・琉球アジア文化専攻は、琉球アジア言語文化圏（沖縄、日本、中国、台湾、朝鮮半島など）の言語・文学・文化・歴史・民俗などに強い関心を持ち、彼我の相違と類似性に目を向けつつ主体的・積極的研究をし、当該地域への理解を深めることを目指している。したがって、この専攻の入学希望者には、これら諸地域の文化への深い関心はもとより、そうした文化を生み出す社会の仕組みへの持続的な探究心が要求される。問題文は、「国際化論」や「文化論」について、「考えについての考え」を深めること、そのためには少なくとも二つの「対概念」への目配りが必要であるということについて述べた文章である。本出題の意図は、二つの「対概念」として「自文化至上主義と文化相対主義」、「エティック概念とエミシック概念」について述べた文章を正確に読み取り、論旨を的確に把握できるかを問うことにある。加えて、筆者の主張を汲み取った上で、「自文化至上主義と文化相対主義、エティック概念とエミシック概念のせめぎ合いに焦点を当てて思考を進めること」について論述させることによって、文化の比較分析の重要性について論じた文章に対する受験生の理解力、および独自の発展的な思考力や論理構成力、言語表現力などをみることにある。